

ユリカモメ



ユリカモメは、冬に水鳥公園に飛来する、ハトよりもやや大きなカモメの仲間です。なお、日本の古典文学に登場する「都鳥」

は、今日の野鳥図鑑に載っているミヤコドリではなく、ユリカモメであるといわれています。

カモメ類は、遠目で見ると白い体と先端が黒い翼、灰色の背中が美しく、かわいらしい印象がある方が多いかもしれませんが、しかし、実際にはカモメ類は肉食の鳥であり、近くで観察すると、くちばしは先端がかぎ状で鋭く、目つきも鋭くて怖い顔をしているものが多いです。そんな中で、ユリカモメはくちばしと脚が赤く、つぶらな黒い目をしており、身近にみられるカモメ類では最もかわいいです。

水鳥公園には普段あまりカモメ類がやって来ないので、ユリカモメはいつも見られる鳥ではありません。しかし、冬の寒さが厳しい日に、ユリカモメが数十羽から100羽以上の群れで水鳥公園に飛来することがあります。ユリカモメたちが何をしているのか観察し

てみると、集団で池を泳ぎながら水面を数回つづいた後、飛び立って少し離れた場所に再び舞い降りて水面をつつく、ということを繰り返していました。おそらく、水面近くに漂う何かを食べているのだと思うのですが、望遠鏡でいくら注意して観察していても食べているものはわかりませんでした。寒さが厳しい中、食べ物を探して中海周辺をさまよっている過程で水鳥公園に立ち寄っていたのでしょう。

また、ネイチャーセンター正面にある小島で、カモの群れと一緒に休んでいることもあります。望遠鏡で観察してみると、くちばしと脚の色が濃くて鮮やかな個体と、色が淡い個体がいることが分かります。色鮮やかなほうが成鳥、淡いほうが幼鳥で、幼鳥の翼には褐色の羽毛が混じります。

ユリカモメを観察できる機会がありましたら、ぜひくちばしや翼の色に注目して、成鳥か幼鳥か確認してみたいかがでしょうか。見分けることができれば、ますます観察が楽しくなります。



色が淡いユリカモメの幼鳥

米子水鳥公園主任指導員 きりはら けいすけ 桐原 佳介



タシギ

1月に見られる生きものたち

鳥類：コハクチョウなどのハクチョウ類、マガンなどのガン類、トモエガモなどのカモ類、ダイサギなどのサギ類、ハイロチュウヒなどのタカ類、ユリカモメなどのカモメ類、カワウ、カイツブリ、タシギ、シロハラなどの小鳥類 など。

1月の催し

自然観察会

「初日の出！コハクチョウ観察会」

初日の出を背景に、園内に群れるコハクチョウを観察して新年を迎えます。1日(月・祝)午前7時～8時。暖かい服装でご参加ください。双眼鏡は貸し出しできます。

お正月企画

「ドングリこま回し大会 2018」

ドングリのこまを作って、回った長さに応じて記念バッジをプレゼント。1日(月・祝)～8日(月・祝)開館時間中いつでも。対象：小学生以上がおすすめ。参加費：無料。

お正月企画「水鳥公園の生きものカルタで遊ぼう！」

畳を敷き、水鳥公園オリジナルカルタで遊べるコーナーを開設します。1日(月・祝)～8日(月・祝)開館時間中いつでも。対象：5人前後の家

族や友人グループ。参加費：無料。

手作り自然教室

「水鳥の絵を描く会 Part2」

望遠鏡で実際に水鳥を観察して画用紙に描きます。画用紙は提供します。6日(土)午前9時～正午。対象：小学生以上先着15人、要予約。持ち物は予約時にご確認ください。参加費：無料。

第23回米子水鳥公園

絵画コンクール

▶作品募集

身近な鳥、大好きな鳥、自然の中の鳥など、生き生きと描かれた作品を募集します。10日(水)まで開館時間中いつでも。対象：小学生。応募方法などくわしくはお問い合わせください。

▶作品展

小学生が生き生きと描いた、好きな鳥の絵を多数展示します。なお、作品の審査には来館者の皆さんの投票

結果も反映されます。ぜひ審査投票にご参加ください。20日(土)～3月4日(日)。審査投票期間：2月2日(金)まで。

●会場・集合はすべて水鳥公園ネイチャーセンターです。

●米子水鳥公園の催しへの参加には入館料が必要です。手作り自然教室の参加費は、入館料を含めた大人・子ども一律の料金です。

●入館料は、高校生～69歳の方は310円、その他は無料です。

■開館時間

平日：午前8時30分～午後5時30分
土・日・祝日：午前7時～午後5時30分

■休館日

2日を除く毎週火曜日。
※お正月三が日は臨時開館します。開館時間は元日は午前7時～午後5時30分、2日・3日は午前8時30分～午後5時30分